

謹賀新年

2007年1月1日



皆様のご健康とご多幸を心よりお祈り申し上げます

良い新年をお迎えの事とお喜び申し上げます。「出生率1.26」日本の総人口は46年に1億人を割り込む。55年には8993万人に減り、65歳以上が人口に占める高齢化率は今の倍の40.5%になるとされ、心配な反面今後の生活を予測する数値が発表されたと評価できます。

「どのような改革も、社会保障制度維持の面で不十分であり、社会を持続可能に出来ない」との心配もありますが、私は楽観しています。

高校の卒業式の祝辞で、人口ピラミッドが逆転し「社会保障制度を維持できない心配な時代」について、明治維新と対比し、当時の世界を侵していた植民地主義の荒波から国と国民を守ったように、これから起こる技術革新で高齢を獲得した日本人と人類が「希望の革命」を実現できると、卒業生の奮起を促しました。

これまでの私たちの研究に引き続き、リハ医学の革新のための研究が始まります。そのための方法も米国では特許されています。

今求められるのは、一人ひとりの考え方の革新のように思います。

「三方一両損」、受益する高齢者も負担する次世代市民も企業・行政もそれぞれが耐えられる痛みを受け入れることが求められるのでしょうか。

1月中旬に新しいNPO法人「高齢市民が活躍するための社会技術研究会」が発足します。

社会貢献をし続けて生きる高齢者の働き方の提案を、技術を基礎に行っていきます。私は団塊世代で高齢の域に入りますが、自立の精神を持ち、させてもらう生活を送るのではなく、何歳になっても社会貢献できるように生活したいと考える新年です。

会合は2月15日午後2時から横浜で開催しますが、ご案内は<http://www.biophilia.biz>に掲載しています。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。